

2021年（令和3年）1月31日（日曜日）

持続可能な社会の実現に向けて、県内ではさまざまな取り組みが広がっています。只見中では海洋プラスチックごみの削減を目指した活動が行われており、磐梯山周辺では地産地消を取り入れた教育旅行が好評を集めるなど、関心は高まっています。出前講座で普及を図る動きもあります。今回は「教育」をテーマとし、国連が掲げている持続可能な開発目標「SDGs（エスディージーズ）」について考えます。

プラごみ削減へ生徒一丸

只見中

新聞紙レジ袋やバッジ作製

只見中は持続可能な社会の実現に向けて積極的に各種取り組みに励んでいます。海洋プラスチックごみの削減につながる新聞紙レジ袋の作製をはじめ、地元産ブナを利用し

たSDGsバッジ作りなども繰り広げています。同校が海洋プラスチックごみ削減に本格的に取り組むきっかけとなったのは二〇一九（令和元）年七月に新潟県上越市で実施した海辺でのごみ拾

い。ペットボトルなどのプラスチックごみが多く、ごみ袋十三袋分も集まりました。それ以降も定期的にごみ拾いをしており、去年の十月も同市で行ったほか、昨秋の修学旅行で訪れた宮城県でも実施しています。

新聞紙を利用したレジ袋作りは、昨年七月のレジ袋有料化に伴い全国的な関心を集めました。こ

このほか、地元のブナを利用したSDGsバッジも作製し、同校の活動の賛同者に配布。音楽の授業ではSDGsの歌も制作しました。歌には森林伐採やプラスチックごみの削減、二酸化炭素排出量の削減による地球温暖化防止などのメッセージが込められています。

生徒の活動を支援している同校の目黒英樹教諭（五〇）は「小さな気付きから地域を巻き込む活動になった。持続可能な社会の一員としての活動がさらに発展するよう、生徒を後押ししていきたい」と話しています。



海辺でのごみ拾いを行う只見中の生徒



只見中の生徒が作るSDGsバッジ